会山行計画案

富士山（須走口）4月5日（土）～6日（日）

グレード：初級～中級　　山名：富士山（須走口）
リーダー：長坂末男　　計画案提出者：大坪俊郎
目的：富士山の林間や壮大な雪斜面を楽しむ。
行程：須走もみじライン車止―小富士―須走避難小屋（テント場）―五合目小屋―登高可能な所まで登り滑降。（車止めから車道を歩かず新開拓の沢筋を登り、小富士から林間を取り須走の茶屋跡に出て五合目上部を目指します）
５日（土）　朝、山中湖＝御殿場有料道路の須走から「もみじライン」に入り、上り詰めた車止集合。（もみじライン入口に進入禁止の看板がありますが、「富士登山」として横をすり抜けて下さい）
横浜から車が出ますので、ＪＲ東戸塚に朝７時集合頂ければ乗り合いできます。
６日（日）　５合目から上がれるところまで登高、その後滑走しテント撤収。
注：前日の天気予報で天候が悪い場合、１週間順延して４月 12～13 日に。
その場合、13 日(日)午後　富士霊園で花見を予定。
地形図（２万５千）：須走・富士山
用具（通常以外）：クトー、幕営用具一式
費用概算：１万円以内
問い合わせ先：沼津道路管理事務所、長坂氏宅　0550-88-1983

鳥海山　5月1日(木)～5日(月)　3泊4日

リーダー/提出者：木村彰　　グレード：初級～中級　　山域：東北・鳥海山
出発：１日(木)夜、自動車にて出発。先着順６名まで。それ以上は別途車を調達または別行動
帰京：５日夕までに帰京。
予定コース：（１）祓川コース（２）湯ノ台コース（３）中島台コース（４）百宅コース
個人装備　：山スキー装備一式、雪崩ビーコン、スコップ、ゾンデ(有る人)、行動食
共同装備　：コンロ、コッフェル、ツェルト、食料
その他　　：　原則、車で行く予定。
宿舎：　公営（町営）宿舎「鶴泉荘」（自炊可）の予定

（１）　祓川コース：祓川ヒュッテからの往復。登り３～５時間。
（２）　湯ノ台コース：林道の除雪終点から滝ノ小屋経由、登り３～５時間
（３）　中島台コース（北面コース）：雪の多い場合のみ。自動車を下の道路（「中島台レクの森」付近）に置き、タクシーで鉾立から入る。または、「中島台レクの森」より携帯でタクシーを呼ぶ。登り七高山まで３～５時間。下り標高差 1800m
（４）　百宅コース：鳥海山東側の大清水小屋から唐獅子平避難小屋経由のコースも考えられる。

天候不順の場合は、一般の鉾立コースや大平コースに変更。ただし、コースが面白くないので、最初からの予定には含めない。原則、参加者の希望でコースを設定。

雪倉岳　4月4日(金)～4月6日（日）2泊3日

リーダー：森達男　　グレード：中級　　山域名：天狗原、白馬乗鞍、蓮華温泉、雪倉
集合：４日（金）午前８時　栂池高原スキー場　ゴンドラ乗り場
行程：
４月４日(金)：ゴンドラ終点…天狗原―蓮華温泉（泊）
４月５日(土)：蓮華温泉…瀬戸川…雪倉岳―蓮華温泉（泊）
４月６日(日)：蓮華温泉…白馬乗鞍岳―天狗原―山ノ神―黒沢川―白馬乗鞍スキー場
個人装備：山スキー道具一式、シール、クトー、ビーコン、スコップ、笛、ゾンデ棒、
　　地形図（1/2 万５千 白馬岳）、コンパス、ヘッドランプ、テルモス
食料：昼食（３回）、非常食
共同装備：ビバーク用道具、修理用具（リーダーが所持）
その他：夜行列車の廃止で４日朝立ちも考慮

薬師岳～双六岳　ラ・ランドネ創立２０周年記念山行　　運営委員会

当初は立山～槍ヶ岳の日本オートルート完全縦走を計画していましたが、今年のGWは中抜けが大きく連続休暇を取れない人が多いことと、春先の温暖化により五色小屋～太郎平小屋間縦走に時間を要すると予想されるため、薬師～双六のハイライト部分をコアとして集団縦走し、前後の立山～薬師と双六～槍は有志オプション形式に変更します。営業小屋利用によりザックは軽量化できますので、会員・会友はこの記念山行に奮ってご参加ください。

４月２６日(土)～２９日(火・祝)　前夜発３泊４日

集合：４月 26 日（土）午前６時　ＪＲ富山駅　急行「能登」/高速バス(スキー板持込不可)が便利
行程：26 日　富山 0608＝0743 飛騨神岡＝(タクシー)＝飛越トンネル手前から登高
　　―北ノ俣岳―1700 太郎平小屋(宿泊)
　27 日　太郎平小屋 0600―薬師岳山頂～カール滑降―稜線～太郎平小屋(宿泊)
　28 日　太郎平小屋 0500―黒部五郎岳～カール／稜線滑降―三俣蓮華岳―双六岳
　　―1600 双六小屋(宿泊)
　29 日　双六小屋 0600―双六岳～カール滑降―大ノマ乗越～ワサビ平―1400 新穂高温泉
　　＝(タクシー)＝平湯温泉 1625＝(高速バス)＝2100 新宿着

注１．　予定時刻はあくまで一応の目安であり、状況と体力で変わります。
注２．　太郎平にはヘリコプター・サービス(約３万円)もあります。
注３．　自家用車複数で新穂高温泉に一部駐車後、飛越トンネルに向かう方法もあります。
注４．　天候次第では薬師岳に行かず、そのまま双六方面に縦走することもあります。
注５．　26 日が悪天候予想の場合は、出発日を 27 日に変更します。
注６．　立山～薬師は当山行前に、双六～槍は当山行後の有志実行が望まれます。
注７．　また双六岳往復パターン等のヴァリエーション参加も歓迎します。

装備：シール、クトーを含む山スキー用具一式、雪崩ビーコン等
総リーダー：　矢口政武

会山行報告

十石山

日程：2003 年 2 月 1 日(土)～2 日(日) (前夜発)
メンバー：上林裕之(Ｌ,記録)、木村彰、奥山修司、合田英興、平野裕也、猪俣恵美子、猪俣亮介(ゲスト)

1 月 31 日(金)
木村号と平野号 2 台の車で乗鞍高原スキー場の無料夜間仮眠所（観光センター）に午前 2 時頃集合。ビールを一杯飲んですぐ寝る。夜中も人の出入りが多くあまり熟睡できなかった。

2 月 1 日(土) 白骨--->十石小屋 天候：晴れ　行動時間：約 7 時間
　6：30 起床。観光センター内の食堂で朝食を取り車で白骨へ移動。少し迷うがスーパー林道の除雪の終点に車を停め、支度をして 9:30 出発。少しだけ林道を歩きトレースのある尾根に取り付く。少し登って西側のコルに滑り降りここから本格的な登り。しばらく急斜面のラッセルをしたところで、後から来た単独の人に抜かれ、以後一度も追いつけずにトレースを使わせてもらって登る。平野さんがシール登行に慣れておらず苦労している。
　かなり濃い樹林で展望が無い尾根を休憩しながらひたすら登るが、ペースは上がらずどうしても先頭と後ろとの間が開いてしまう。明確なトレースが有り、視界も良いので最後は各自のペースで進む事にする。2400m 付近で森林限界を超え、開けたゆるい斜面を一登りして 15：50 上林と猪俣亮介君がまず小屋に到着。小屋は大部分が雪に埋もれているが、冬季の入り口は開いておりヘッドランプを付けて真っ暗な小屋に入る。大きな立派な小屋で目が慣れると、小さなすりガラスの窓からの明かりで何とか中が見える。16:30 には全員無事小屋に到着。小屋の備品のマットや毛布などを下に下ろしさっそく夕食。
　猪俣シェフが手際よく次々と料理を出してくれる。この晩の夕食メニューは、豚キムチ炒め、春雨とナスの炒めもの、ほうれん草のからしごまあえ、他 最後に野菜たっぷりの餃子鍋でおなか一杯 大満足。これだけの重たい食材を背負って登ってくれた猪俣親子に感謝。標高 2500m の稜線上の小屋で、小屋の大半が雪に埋もれているため、コップに入れたビールが飲んでいる間いに凍っていく程の天然の冷蔵庫状態。ガソリンコンロ 1 台とガスコンロ 2 台、ガスランタンにロウソクを炊いても全く温まらず、備品の毛布やマットが本当にありがたい。外に出ると月も無く感動的な満天の星空。21 時就寝。

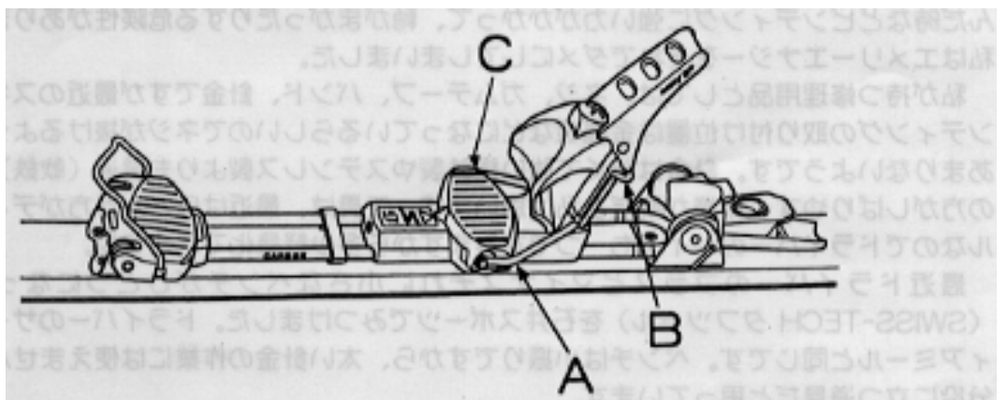
2 月 2 日 十石小屋--->白骨 天候：晴れ 行動時間 約 4.5 時間
　6 時起床のつもりだったが、30 分以上寝坊してしまった。すぐに朝食の支度をして合田さん担当の讃岐うどんの朝食。こちらも具沢山でおなか一杯になる。9 時半に全員で歩いて数分の十石山山頂まで行き記念撮影。朝起きた直後は雲一つ無い快晴で素晴らしい景色だったが、あっという間に雲がでてしまった。それでも穂高連峰が目の前に見えその奥に槍ヶ岳、八ヶ岳や富士山も見えた。
　奥山さんが 1 人 小屋に残り、残りのメンバーで 1 本だけ空身で滑りに行く。上部は固めで快適だったがその下はかなり重い深雪であまり快適ではない。標高差 300m 位滑るつもりだったが、200m 位で平らな場所に出たのでここまでとして、シールを付けて登り返す。途中から 23 歳の猪俣亮介君に先頭を替わってもらったがさすがに速い。10 時に小屋に到着し、下山の準備をして 10 時 30 分下山開始。

　昨日のトレースを慎重にたどりながら、樹林帯を滑る。かなり樹林が濃くあまりダイナミックには滑れないが、思いのほか軽い雪で結構楽しめた。順調に高度を落として約 1 時間で最後の急斜面の上に出る。滑り出しのところがブッシュが多く、下を見て尾根の右側の斜面が滑りやすそうだったので、そちらの斜面を滑るが、これが裏目に出た。しばらく滑って尾根を乗っ越して元の斜面に戻ろうとすると、ほとんど垂直のがけで尾根を乗っ越せない。もう少し下ってみるとやはり同じで、最後は沢上の相当な急斜面のため、板をはずしてつぼ足で登り返す事にする。ももまで潜る急斜面のラッセルで汗だくになって登るがほとんど進めない。
　途方に暮れた所でシールを付けてスキーで登ってみると全然潜らず簡単に登れる。改めてシール登行の威力を思い知った。尾根を乗っ越せる所まで登ってしばし休憩。最後の気のゆるみで 2 時間もロスしてしまった。天気がよかったのと時間的に余裕があったのが救い。最後の急斜面を滑り、トレースに従って尾根を回りこむと昨日登り始めた尾根の取り付き点に出た。林道を少し下って、13:45 車のデポ地に到着した。白骨温泉の泡の湯に入り解散。帰りの道も全く渋滞無しで帰れた。

山スキー用締具　破損事故の報告

1月 11～１３日の会山行「八幡平　茶臼岳」深雪練習で発生した、締具破損の報告です。皆さんのご参考になれば幸いです。　　（**直井 敏男**）

締具の仕様：ジルブレッタ社製イージーゴー505 型（２シーズン使用）
破損した部位：右足のヒールピース可動アーム（Heel-Fastener-Bow：金属製）
破損の症状：アームが３箇所で引きちぎられ、ヒールピースごと右斜め１m前方へ飛ぶ。下の図（出典：ジルブレッタ社　イージーゴー505 型　使用説明書）の３箇所が、
Ａ→Ｂ→Ｃの順でちぎられた。



破損の状況：2003.01.13　10時頃　八幡平スキー場中間ゲレンデ外の新雪約30cmで傾斜30度弱の斜面途中のゆるいコブに乗り上げる所で、板が軟雪に潜り両手を前に突いて急停止した際にヒールピースに前倒圧が加わったが、セーフティーの解放機構は働かず破損。
破損の原因：代理店から修理納品時に原因についてコメントは無かったが、破損部位3箇所がいずれもアームの屈曲部であることから、通常の使用で引張りストレスが繰返し加わった結果、アーム曲げ加工時の残留応力が金属疲労に至って前倒圧に抗しきれず、ちぎれたと推定される。
修理状況：破損（右足）締具が一新され、さらに、両側のリターンスプリングも流れ止め（ひも）もサービスで更新された。ショップ（池袋・秀山荘）と代理店の対応はまずまず良好で、クレーム処理（無償）扱いとなり、希望納期も叶えられた。
現場での対応：破損したアームは、前タイプ（ジルブレッタ404型）の部品を流用して設計されていて、長期間・多数の販売実績があるはずのため、実に予想外のトラブル。したがって、修理のための工具や材料は持っていなかった。
　幸い、深雪練習会＆ゲレンデ外（脇）でのことだったので大事に至らず、応急修理の準備は全くしていなかったので、かえって即断できて、直ちに皆さんと別れて板をかついで付近の雪山を散策しながら下山。深山や長期縦走中での破損を連想すると、ぞっとします。
知見と提言：
　要は、スキー装備の重大な破損に対応できるかの問題ですが、スキーを再装着して滑走の続行またはエスケープ（退避）できるように、必ず現場で応急修理するのが鉄則です。なぜなら、スキーの破損に備えてワカンやスノーシューを予備的に持参する方法もありますが、新雪深雪でのラッセル歩行は労力（＝時間）が激増して、汗と雪の濡れによる冷えや疲労が激しく、とても採用できません。
　結論としては、その応急修理のために事前の準備と現場での工夫が必要で、特に準備は大切です。具体的には、自身のスキー装備（シール、板、締具、靴）をじっくり観察して、どの部分が破損すると行動中止に追い込まれるかを幾通りも模擬思考のうえ、応急修理の方法をあれこれ想定して、それぞれの破損を修理する際に必要となる工具や材料を準備・携行します。
村上静志さんのコメント
　ディアミールはあまり壊れるような事はないと思いますが比較的壊しやすいのは、ヒールがフリーになっている時ですね。登りで滑り落ちたり、またフリー状態で下っていて転んだ時などビンディングに強い力がかかって、軸がまがったりする危険性がありますね。私はエメリーエナジーをそれでダメにしてしまいました。
　私が持つ修理用品としては、ネジ、ガムテープ、バンド、針金ですが最近のスキーはビンディングの取り付け位置は金属板などになっているらしいのでネジが抜けるような事はあまりないようです。針金は細くて強い鋼鉄製やステンレス製よりも普通（軟鉄）の針金の方がしばりやすく作業が楽だと私は思います。工具は、最近はほとんど方がディアミールなのでドライバーのサイズも一つですみますから多少軽量化できますね。
　最近ドライバーのプラスとマイナスそれに小さなペンチがひとつになった工具（SWISS-TECHタフツール）を石井スポーツでみつけました。ドライバーのサイズがディアミールと同じです。ペンチは小振りですから、太い針金の作業には使えませんが、充分役に立つ道具だと思っています。
大坪俊郎さんのコメント
　私の締具も、イージーゴー５５５です。締具のカタログ・取扱説明書を引っ張り出し、５５５をよく観察しました。この事故報告以来、修理道具は必携にしておりますが、ヒールの靴底板も飛んでしまえば締まらないので、仮にステンレスのワイヤーとペンチがあっても靴の板への固定も出来ない訳ですね。過去、デイアミールで中央シャフトが折れた事例も聞いております。

山スキー入門　実技講習会　第１回　報告

　新入会員募集を目的とする山スキー入門実技講習会を１泊２日の合宿形式で開催した。今回の受講者５名は中上級者ばかりで、深雪は充分にこなし、モナカでもあまり転ばない滑降技術の持ち主であったところから、講習はシール登高、キックターン、装備類等に限って実施できた。

２００３年2月１５日(土)～１６日(日)　前夜発１泊２日
受講者５名：内山幾人35、斉藤敬一35、中原正人30、早川二郎53、深井真治41
会員５名：Ｌ合田英興(報告)、ＳＬ杉原鉄夫、小松はる子、池田和行、土井宗史

日程　１５日(土)　晴れ
　和田小屋前集合1200(昼食)1240―1400神楽ヶ峰手前稜線～(重い深雪、モナカ雪滑降)～―1700深雪荘（宿泊）
　１６日(日)　雪
　深雪荘0730――1200清八沢ノ頭～(やや重い深雪、モナカ雪)～雪庇割れており、早目に谷筋に下降～―1430深雪荘解散

成果 ① ゲレンデ上級、オフピステ中上級滑降技術の受講者であり、登高についてだけ初中級水準であったため、大して手間が掛からずに講習できた。
② １泊することにより、夜は雪崩対策、ＧＰＳ利用法、山スキー装備等について説明した後、酒を飲み交わして懇親を深めることが出来た。
③ 受講者５名の内数名は、今後の当会行事への参加が見込まれており、やがて入会へと繋がることが期待される。

課題 ① 受講者の滑降技術水準が高いため、それ同等以上の技術とスピードで滑降する指導者が必要であったが、今回は残念ながらやや不足気味であった。
② 特にゲレンデ靴で長い幅広の板を履き、深雪大回り高速ターンを目指している若手と同じパターンで、滑降主体の山スキーもする会員は不在である。
③ 会員の大半は始発電車で集合のうえ合田車同乗で向かったが、往路渋滞により集合時刻に１時間も遅れた。車利用の際は、始発前早朝か、前夜発でなければ不味と判明。

2月 15～16 日の「山スキー入門　実技講習会」

和田小屋前で、合田リーダーによるオリエンテーション

神楽ヶ峰手前稜線の重いモナカ雪を滑降

山スキーのガイドブック紹介（上）

菊地哲男編**『スキーツアー』**　山と渓谷社　2001 年

技術、体力、意欲の揃った上級者を主対象として、比較的安全ながらマンネリ化した伝統的山スキー領域を、高難度ながら魅惑的なスキー・アルピニズム領域にまで昇華させた画期的なガイドブックです。登高、滑降、装備、サバイバル、雪崩対策等も簡潔に網羅しており、北アと上越以外は収録ルート本数が少ないものの、欧州アルプスも紹介するなど、質感の高い写真共々、山スキー滑降新時代に相応しいテキストと言えます。　（合田）

北田紘一編**『日本スキーツアー　ルート集』**　山と渓谷社　1994 年

コースガイドとツアー概論の二部構成で、ガイド編はカラー刷で見やすく写真が豊富です。グレード表示が滑り中心のアルペン的要素と、歩き中心のノルディック的要素の３段階評価となっており、ルートの傾向が把握できます。　掲載された５０コース中、北海道が１２コースと他書に比べ多くなっています。バリエーションコースの紹介が豊富ですが、詳しくは述べていません。手にとってみると楽しくなり、行ってみたいなと思わせるルート集です。
（大坪）

全国勤労者スキー協議会・編著
『新体連・スキーシリーズⅡ』　新体連・全国勤労者スキー協議会　1989年

白銀の大自然に飛び込み滑る「山スキー」をはじめ、「クロスカントリースキー」、「競技スキー」の3編に分かれています。「山スキー編」では用具と装備・食料、リーダーの役割とパーティーの作り方や安全対策、登行・滑降技術などのほか、山スキーコース紹介として、東北から関西までの29コースについてルート図付きで説明。写真も多く入っています。用具のうちスキー板と締具については、その後色々と改良されてはいるものの、入門者からベテランまで、是非お薦めしたい一冊です。
（倉崎）

北田哲郎編**『スキーツアー 入門とガイド』**　山と渓谷社　1988 年

入門編とガイド編の二部構成。ガイド編は、東北・上越を中心にツアーの多様な楽しみを味わえる４０コースが選ばれています。掲載順序は、入門コースから難しい順になっており、４段階のグレード評価と合わせ自分のレベルの目安になります。コーススケールの把握のため、登りと下り別の高度差・距離と標準所要時間に加え、コース中の要所の区間所要時間も参考になります。
（大坪）

山下喜一郎・編著**『全国スキーツアーガイド』**　白山書房　昭和 58 年

全国の代表的な 60 のスキーコースを紹介。地域は、北海道（6 コース）、東北（22）、上越等（7）、信越（10）、北アルプス（11）、白山以西（4）にわたっている。各コースについて、２万５千　地

形図に基づくルート図、大まかな所要時間、難易度（技術力・体力を含む）が示されています。読みやすい編集であるが、私の初版本では越後湯沢の、高津倉山など既にスキー場になってしまたコースも含まれています。出かける場合には、他の資料にも当たる必要があるでしょう。
（榊）

４月号では、『東北山スキー100 コース』と『山スキールート図集』を紹介します。

「雪山山行と遭難」　『岳人』　No。667　2003 年１月号から抜粋

『岳人』2003 年１月号の特別企画として、5 件が掲載されています。このうち、当クラブに関係ありそうな３件について、要点を抜粋して報告します。冒頭の２件は、発生直後に会員の合田英興氏が関係者から情報を得て、会報に報告しています(注 1)。そちらとあわせて読まれることを期待します。　（榊）

八幡平・源太ヶ岳東面　雪崩事故　2001 年１月 13 日(注 2)
雪崩発生　雪洞掘削中その上部から雪崩れ、４人とも流された。そのとき同時に北側の斜面も崩れ落ち二つは合流してデブリは約３00m の長さであった。4 人は合流点より下、雪洞掘削点より 193m、196m、201m（以上生存）及び 216m（死亡）の間に流れ落ちた。デブリは風成雪のため軟らかかった。
事後の対応　ゾンデ（ブラックダイヤモンドのストックをつないだもの）捜索をしたが遭難者を発見できず、翌日朝の捜索で、216m 地点で深さ約 1m の地点で発見。
雪洞掘削地点の状況　傾斜：32.5 °、弱層深さ 1.5m 以上（推定値）
当事者の言葉：ビーコンに対する認識の欠如、 ゾンデの訓練はしていなかった、弱層テストをしなかった、油断（これまで 20 回以上滑って雪崩れたことがなかった）

岩木山・鍋沢源頭　雪崩事故　2001 年１月 19 日(注 2)
雪崩発生　事故の 2 日前に降雨、その上に 20～30cm の積雪。その沢をトラバースしたことによる人為的誘発の板状表層雪崩（厚さ 0.5m、幅 50m、長さ 100m）で、4 人のうち、3 人が流され 2 人が埋まる。
事後の対応：110 番通報とパトロール隊への救助要請（スコップ、ゾンデ持参を！）、雪はコンクリートのように硬かった。一人は 2 時間後、もう一人は 3 時間後に、それぞれ遺体で発見された。
参加者のプロフィール:リーダーを始め全員スキー歴が長く、公認パトロール資格などを持っていた。
当事者の言葉：リーダーなど二人は雪崩講習を受け、ビーコン、ゾンデ、スコップを購入、パトロール組織の普及にも尽力していたが、当日はビーコンを持っていなかった。油断（雪崩常襲地帯ではないので安心していた。）

北アルプス・抜戸岳東尾根末端　深夜の雪崩埋没事故　2001 年 12 月 30 日
雪崩発生　抜戸岳東尾根末端手前の広い緩斜面に幕営中、奥抜戸沢から落ちた雪崩が南側に回りこんでテントを襲撃した。テントはデブリの末端に埋まったので、大事に到らなかったが、5 人はテントごと 1.5 張り分くらい流されて埋まった。一人がナイフでテントを割き、まず一人の仲間を引きずり出し、他の人もナイフを借りて這い出した。ヘッドランプを腕に巻きつけていた人は、点灯したので所在がわかった。
参加者の反省点：緩斜面であってもその奥に雪崩れる谷があるのを見落とした。弱層テストを重視していなかった。皆ナイフやランプを持っていたが、首や腕につけていなかった人は役に立たなかった。ビーコンはテントの中でもつけておくべきだろう。テントの外に出しておく、ピッケルアイゼンなどはまとめてスタッフバッグにでも入れ、口紐をテントのポールに結び付けておくのが良い。袋やザックに入れておかなかったものは、行方不明になった。（記事にはないが、皆、靴を履いたままシュラーフに入っていたと思われる）

(注 1)　合田英興「雪崩ビーコンがあれば助かった筈の雪崩事故」
　　『LA RANDONNEE』、 No.207　 p.17　2002 年２月
(注 2)　記事では事故発生が 2001 年となっているが、2002 年の誤りと思われる。

新刊紹介　(山と渓谷社　ホームページから原文のまま転載)

『ドキュメント　雪崩遭難』　阿部　幹雄 著

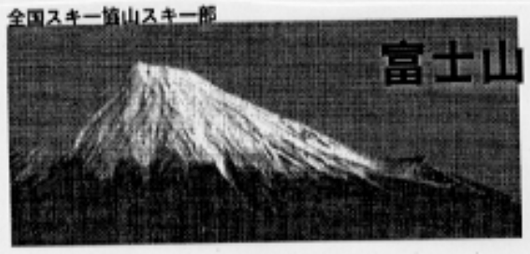
雪山の恐ろしい雪崩遭難の実例を検証、事故の実態を解明する。最近、起きた雪崩事故のなかから、雪山登山、スキー、山ボードなどタイプ別に、雪崩発生、捜索救助に至るまでの経緯を明らかに雪崩事故の原因と対策を検証する読みもの。遭難者たちの行動のみならず、雪崩に遭遇したときの心理まで詳述。地図、現場略図、写真を多用し、理解しやすい構成となっています。
書籍コード：140030　　定価　1600 円 (外税)　　四六判 280 ページ
ISBN4-635-14003-2　　発行　2003 年 01 月 30 日

《スキー協の頁》

これからの山スキー行事（3月下旬～5月下旬）

3／21(金・祭)~23（日）神楽から小松原越え山スキー	主催東京・合田
参加費22，000円　打合せ会　3／11（木）ルノアール（新宿南口）	
3／29（土）～30（日）かぐら山スキー入門	主催東京・長部
参加費17，000円　打合せ会　3／18（木）ルノアール（新宿南口）	
3／29（土）～30（日）巻機山山スキー	主催東京・皆森
参加費18，000円　打合せ会　3／18（木）ルノアール（新宿南口）	
4／4（金）～6（日）蓮華温泉と紙すき山牧場山スキー	主催東京・杉村
参加費29，000円　打合せ会　3／25（火）ルノアール（新宿南口）	
4／26（土）～27（日）立山・関西山スキーリーダー養成実技検定	主管兵庫・釣
参加費・打合せ会＝詳細未定	
5／2（金）～5（月・祭）八甲田山山スキー	主催東京・吉田
参加費50，000円　打合せ会　4／23（水）ルノアール（新宿南口）	
5／3（土）～5（月・祭）鳥海山山スキー	主催東京・皆森
参加費32，000円　打合せ会　4／22（火）ルノアール（新宿南口）	
5／10（土）～11（日）富士山大滑降（富士宮口）	主催全国山スキー部
参加費　2，000円　打合せ会　詳細検討中	
5／24（土）～26（月）立山・剣沢山スキー	主催東京・川上
参加費30，000円　打合せ会　5／14（水）ルノアール（新宿南口）	

全国スキー協山スキー部



富士山にシュプールを

富士山の素晴らしいオフピステを滑ろう!!
会員が集い、富士を安全に楽しく滑降し、交流を深めましょう。
ピステからオフピステへ。

日時　2003年5月10日（土曜日）～11日(日曜日)
集合　5月10日午後5時富士宮口5合目テント前（スキー協旗が目印です）
行動予定　10日（結集と下見の日）
各組織は、できるだけ早めにテントを設営し、下見を兼ねた登高と滑降を各組織の責任において行い、その後集合場所に
11日　午前5時　富士宮口5合目駐車場出発
午後1時30分　登高終了、休憩、滑降準備
午後2時　滑走開始（遅くともこの時間には滑走を始める）
午後4時　富士宮口5合目駐車場集合、記念撮影の後解散
注）宿泊は、富士宮口5合目駐車場近くでテント泊となります（テント生活必要品は各自で調達してください。なお、テント以外の宿泊は、後日、参加要綱にてお知らせします。）

参加費　2,000円（事務諸経費、傷害救出基金）
参加資格　スキー協会員であること
STT5S点以上の滑走技術
1時間で標高差200m以上登れる脚力があること
2500m以上の山に登っても異常の無いこと
リーダー、パーティーとの協調性があること
申込み締切り　2003年4月10日（木）
その他　参加申込みは、各地スキー協へ申し出てください。

安全第一、滑降技術に応じて安全に滑降しましょう

12

2月　例会報告

期日：2003年2月5日（水）19:00～21:00

出席：矢口、倉崎、木村彰、成瀬、細田、小松、岡安、金井、奥村、奥山、合田、上林、小林、杉原、榊、猪俣、曽我部、池田(記録)、中山、鈴木、大坪、土井
ゲスト：藤田、内山、佐藤、倉林、辻、石黒、中原、早川

代表（矢口）：
この10月でラ・ランドネ創立20周年を迎えるが、総会時より会員数が減っている点が気がかり。新しい風を吹き込み、多くの人に山スキーの楽しさを知ってもらうという観点で会員の募集活動をしていきたい。机上訓練を開いたら14名の方が参加していただけた。仲間となって楽しめたら、と大いに期待している。

副代表（大坪）：
20 周年記念誌原稿の締切を延長した。乗鞍岳の記録を、会の顔になる山行として追加した。原稿内の写真があまり集まっていないので、協力してほしい。また、現会員の山スキー用具一覧についてもご協力いただきたい。

山行（合田）：
個人山行記録の会報掲載は、会員動向情報を皆で共有したい、という目的に沿って掲載するため、原則的には事前に計画概要を会報に掲載していることが前提となる。

事務局（池田）：
運営委員会で土井さんの入会を承認。緊急連絡網を作成し、3月例会で配付の予定。

渉外（倉崎）：
スキー協へのカンパ　1173円集まりました。ありがとうございました。

会報・保険（杉原）：
リーダー保険の契約を更新した。1月27日から1年間（保険料1万720円)。昨年より約4000円安くなった。

山行報告：
栂峰→若女平に変更（1月25～26日）　リーダー：金井
北アルプス・十石山（2月1～2日）リーダー：上林
富士山・須走口（2月1日）リーダー：大坪
スキー協　神楽峰（1月18～19日）リーダー：矢口　　詳細は2月号8ページ。

山スキー入門机上講習会(1月 29 日)報告（合田）：詳細は2月号7ページ。受講者は予想を上回る14 名。講師陣に対する評価は、短時間の説明ながら思ったよりよかった。次回以降の机上講習会、実技講習会には、ぜひ運営委員以外のメンバーの参加をお願いしたい。

(次ページへ続く)

(2月　例会報告　続き)

ゲスト紹介：
藤田功治さん：よろしくお願いいたします。登りは苦手。
内山幾夫さん：ゲレンデ以外を滑ってみたい。山スキーをやってみたい。
佐藤直由さん：矢口さんのスキー協講習に参加して、山スキーを勉強したいと思い例会にきた。
倉林晃子さん：机上講習会に参加して、詳しい話を聞きたい。山スキーは先シーズンから始めた。
辻美紀子さん：山スキー歴8年、日帰りが多いので、縦走や小屋泊まりの山スキーをやってみたい。
石黒裕二さん：出身は北海道。スキーは小さい頃から、山スキーは4年前からやっている。いろんな場所に行ってみたい。

山行計画：
谷川・万太郎　3月21～23日　好天の1日（2月号2ページ）　リーダー：大坪
月山～肘折温泉　4月11～13日（2月号3ページ）　リーダー：杉村

会装備：
番号16　銀マット　大坪→岡安に変更

質問
・机上講習会に出席しなくてもよいか（内山）→前後してもかまわないが、ぜひ両方出席して欲しい。（合田）
・八甲田山に今から参加してもよいか。（石黒）→交通手段さえ確保できればよい。（合田）
・何時間くらい歩いて、何時間滑るか、分かる情報はないか。（藤田）→非常に難しい質問。『山スキー　ルート図集』等には所要時間の目安が出ているので、参考にして欲しい。（大坪）

ホームページ関連（木村）
インターネット上のホームページの情報が悪用される恐れがあるので、個人の電話番号を載せないようにしている。会報の原稿に記載されていてもホームページでは削除しているが、各自で注意して欲しい。

小松はる子さんからスキー板寄贈

女性用170㎝シール付き山スキー板を、小松はる子さんから寄贈していただきました。
ありがとうございました。入門講習会などに活用させていただきます。

(運営委員会)

土井さん　入会の抱負
4月号に掲載します。お楽しみに・・・・

ランドネ運営委員会報告

2／19（水）19：10～20：45　ルノアール（渋谷ハンズ先）参加＝全員

矢口代表：GWの20周年記念山スキー行きと安全確保について討議が必要。

大坪副代表：記録集の原稿集め、山スキー行記録、用具一覧表など状況報告、討議。
・栂峰差替え行事は・20周年記念日本オート25ℱは多すぎ・記録1人行外す？
・用具は会員のみ。カービングとは？……詳細後ℱ掲載。
＊吾妻、磐梯山、安達太良の1/2.5万地図。捜索ルート、危険地帯、ヘリポート記入

合田山行係：GWの20周年記念山スキー討議。
暦は前半4／26～29。後半5／3～5。天候変化3～4日。天候見極め出発。
立山～槍通し遂行困難などから、
基本ルートは4／26～29「飛越トンネル～北ノ俣岳～太郎平小屋～双六小屋～新穂高」太郎平小屋、双六小屋いずれを2泊にするかは協議して決める。
＋オプション歓迎、etc前回同様、立山～槍、飛騨沢。新穂高～双六小屋往復など。
・2回目2/26勉強会。かぐら入門実践。3月連休妙高笹倉。4月富士山須走など

倉崎渉外係：勉強会、入門実践ビラとポスターなどICI石井、カモシカ、秀山荘へ

杉原会報・保険係：会報割付け。山スキー入門書の紹介取纏め。
・リーダー責任賠償保険、マイカー利用中は適用されない。

榊会計係：会費納入は順調だが新入会員が少ないなど収入が小さくなっている。
大枠としては収まる見通しだが項目を越えて対応する必要がある。
対策＝①例会会場費、最近4千円部屋しか空いてない、安い会場を探す。
②役員交通費、運営委増や出席良好で予算超過見込み、会議費補助カット。
③研修や装備費項目を越えて対応することがありうる。
④新入会員の確保に努力する。

池田事務局：入会申込3通（S、F、fさん）会の山スキー同行経験必要、保留。
・新しい連絡網を会報付録で配布する。

次回運営委員会3／27（木）午後7時～ルノアール（渋谷ハンズ先）